

東京都足立区教育委員会	・児童生徒人口/総人口 ・医療的ケアを必要とする児童生徒数 ・医療的ケア看護職員数 : 42,013人/698,276人 : 11人 : 28人
-------------	--

背景・課題

当区では令和3年の区立保育園での医療的ケア児の受け入れ開始以来、子どもたちの成長に応じた就学前から就学後までの一貫した医療的ケア児支援の実現を目指してきた。小学校では令和4年度にモデル事業として、令和6年度からは本格的に支援を開始した。令和6年度は一部のケア（気管カニューレからの吸引）については拠点校（5校）での支援にとどまったため、希望外の学校を選択せざるを得ない現状があった。

また、支援が校内でのケアに限定されていたため、校外学習時には保護者の付添いを要する等の制限があり、校外学習への対応も課題となっていた。そのため、令和7年度は希望の小学校に看護師を配置し、校外学習時も安全性を確認しながら看護師が同行し、支援を行い課題を解決した。

取組の概要

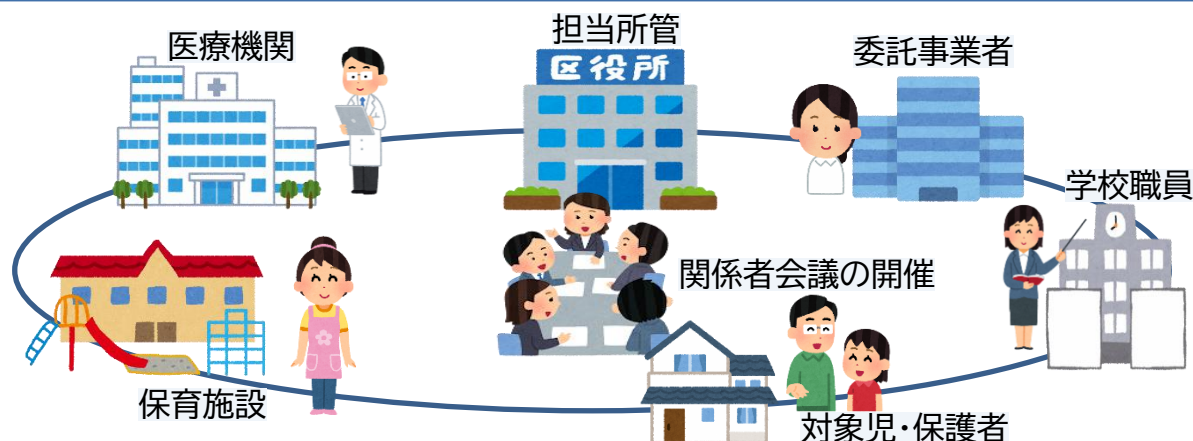
1 付添い期間の短縮化等	(1) 入学前から準備を進めることで、医療的ケア実施の引継ぎのための保護者の付添い期間は概ね3日間程度となっている。 (2) 小学校への就学前の関係者会議で、保育施設の看護師が支援状況を共有している。 (3) 担当者が保育施設や家庭での医療的ケア実施状況を把握し、事前に小学校や委託事業者に情報共有している。
2 校外学習への対応	(1) 令和6年度に「足立区立小学校における医療的ケア児支援実施ガイドライン」を策定し、本格的な支援を開始した。校内での安全な実施体制の実証のもと、令和7年度は校外学習（宿泊学習を除く）へも看護師が同行し支援を行った。 (2) 学校、保護者、看護師が事前に連携を取りながら校外学習時の支援を計画し安全に実施することができた。 (3) 今年度の実施状況の検証から、次年度以降は宿泊学習への支援拡充を目指し検討していく。
3 研修実施体制の構築	(1) 医療的ケア児支援に従事する看護師等を対象とした、医療的ケアの知識と技術の取得・向上のための実技研修（年2回） (2) 医療的ケア児支援に関わる看護師等を対象とした、医療的ケア児支援の理解促進のための研修（年5講座オンデマンド方式） (3) 区内小・中学校の養護教諭を対象とした、医療的ケア児支援の情報共有を図るための研修（年1回）
4 その他 保護者の交流会の開催	医療的ケア児支援を受けている保護者から同じ悩みを抱える保護者同士で交流できる機会を望む声があり、オンラインでの交流会を開催した（年1回）。



付き添い期間の短縮等

本年度の取組及び内容

- 1 就学前から就学後まで切れ目なく支援をつなぐために、関係者が連携し支援体制を整備している。
- 2 支援開始前より、担当所管職員が医療機関、家庭等と連携し医療的ケアの状況を把握し、学校・委託事業者と事前に情報を共有し、環境等を整えることで引継ぎにかかる保護者の負担を軽減している。



校外学習への対応

本年度の取組及び内容

- 1 保護者の負担軽減を目的に、宿泊を伴わない校外学習時に看護師を配置した。
- 2 生活科等での近隣への町探検の他、演劇鑑賞や動物園・博物館等への社会科見学等を含め支援した。
- 3 校外での安全な医療的ケアの実施を実現できたため、次年度以降は宿泊学習への対応を検討していく。

保護者の声

- ※ 付添いなく他のお子さんと一緒に参加ができて嬉しい。昨年度までは遠足に付添っていたので負担が減って良かった。
- ※ 宿泊学習にも保護者が付添わずに参加をさせてあげたい。

実施のスキーム

同行する看護師

- 1 普段から学校で支援をしている委託事業者の看護師が対応。校外学習の行程表、医療的ケアの実施時間や場所、物品の持参方法等、事前に看護師と学校、保護者で調整した。
- 2 普段学校で支援をしている委託事業者の看護師の配置が困難な場合には、他事業者の看護師が対応できる体制を整えた。

本人・看護師の移動手段

看護師・対象児とも他児童と同様の移動手段（徒歩、借上げバス、公共交通機等）で移動し、保護者の送迎なしに参加した。





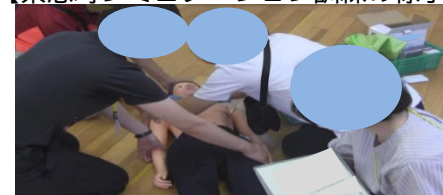
研修実施体制の構築

本年度の取組及び内容

【養護教諭研修】

区立小中学校の養護教諭を対象に、医療的ケア児支援の理解促進を目的に研修を実施し、区立保育園・小学校での医療的ケア児支援について情報共有した。また、常駐方式校で実施した緊急時シミュレーション訓練の動画の共有や、医療的ケア児在籍校の養護教諭が受け入れ実践例の発表を行なった。

【緊急時シミュレーション訓練の様子】



【看護師等実技研修】

- 1 医療的ケア児支援に関わる看護師等を対象に、知識及び技術の習得・向上を目的として、たん吸引等の実技研修を年2回実施した。
- 2 私立保育園の看護師も参加し情報交換の場にもなっており、ノウハウを共有した。
- 3 参加者からは「いざという時に落ち着いて対応するためには事前に学ぶことが大切と感じた」「家庭や保育園での医療的ケアの工夫を知ることができた」等の感想が寄せられた。



【医療的ケア支援者研修】

- 1 医療的ケア児支援に関わる職員等を対象に、医療的ケア児支援への理解促進を目的として、医療的ケア児保育研修をオンデマンド方式で実施した。
- 2 医療的ケア児やその家族をとりまく環境や、保育施設で生活する上での留意点について事例を交えて学び、参加者からは「医療的ケア児の受け入れが少し怖くなくなった」「自園での受け入れのイメージが湧いた」等の感想が寄せられた。



その他（医療的ケア児の保護者交流会）

本年度の取組及び内容

- 1 医療的ケア児の保護者が交流し、成長とともに出てくる悩みを話したり共感したりできる場が欲しいと要望がありオンライン交流会を実施した。
- 2 次年度以降も継続して開催の予定である。



保護者の声

- ※ 同じ病気の方とのコミュニティとは違った角度でのご意見が聞けて、知識が広がった感覚もありました。それぞれの苦労や悩みを聞く事で新たな気づきがありました。
- ※ たくさんの方に支えていただき今があるので、このようネットワークが拡がり孤立化しないようこれからも続けていきたいです。
- ※ 貴重なお話を聞けて大変楽しかったですし、参考になることもたくさんありました。息子のケアのことしか知らなかったのが、他のケアのお話を聞き、視野が広がった気がします。対面の交流会もいいと思います。

交流会でのテーマ

「小学校ってどんな所?」「子どもの事、職場にはどう伝えてる?」「災害の備えしてますか?」等参加者がそれぞれ困っていることや気になることを自由に話したり情報交換をしたりした。

トピック

本人・保護者が希望する学校での医療的ケア実施が可能になりました

令和6年度の支援開始時には、一部のケア（気管カニューレからの吸引）では区立指定保育園の看護師との連携のもと、対象児童の医療行為について専門的な知識と技術を有する従事者を配置して拠点校で支援を行った。拠点校5校でのみの支援であったため、一部で、希望外の小学校を選択しなければならない現状があり、委託による看護師配置により継続的で安全な支援体制を構築することで、令和7年度は全ての対象ケアで本人・保護者が希望する学校での支援が可能となった。

保護者の声

- ※ 新入学に向けて、区立小学校で支援を受けるために、引っ越しと、すでに在籍している兄弟の転校を検討していたので、希望の小学校に入学が出来て良かった(令和7年4月入学の保護者)。
- ※ 昨年度は拠点校への入学ではなく、家族が付き添うことで希望の小学校に入学したが、現実には毎日付き添いをするのは大変だった。看護師が配置され、付き添いの必要がなくなり負担が無くなって良かった(令和6年度付き添い登校の保護者)。

Before

対象ケア	吸引 (気管カニューレ)	導尿 経管栄養 血糖測定・インスリン投与
支援校	拠点校（5校）	希望在籍校
支援者	認定特定行為業務従事者（区立保育園の看護師連携）	委託事業者看護師

After

対象ケア	吸引 (気管カニューレ)	導尿 経管栄養 血糖測定・インスリン投与
支援校	希望在籍校	希望在籍校
支援者	委託事業者看護師	委託事業者看護師

成果と今後の展望

今年度の成果



- 1 小学校における医療的ケア児支援について、安全な支援の継続と、支援の拡大を検討し、課題となっていた社会科見学等の校外学習での支援を拡充した。
- 2 一部の医療的ケアは拠点校での支援としていたが、対象の全ての医療的ケアを看護師が対応することで希望校への進学が出来るようになり、保護者の負担 軽減につながった。

今後の展望



- 1 宿泊行事での安全な支援について検討し、支援の実施を目指す。
- 2 中学校における医療的ケア児支援について検討し、保育園・小学校と同様にガイドラインを策定すると共に支援体制を整えていく。
- 3 対象の医療的ケアを制限せず、検討会で安全な実施方法を検討しながら、個々に応じた安全な支援体制を整えていく。